

科学者委員会 学術体制分科会
論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会 第4回 議事要旨

開催日時：2023年4月7日（木）17:00-19:00

開催場所：オンライン会議

出席者：佐々木 裕之、小長谷 有紀、小林 傳司、松井 三枝、山本 晴子、大場 みち子、中村 征樹、田中 智之、堀 利栄（敬称略）

欠席者：和田 肇（敬称略）

参考人：水島昇（東京大学）、佐藤翔（同志社大学）

1) 前回議事要旨の確認

2) 有識者からの話題提供及び意見交換

(1) 資料2「論文査読の現状と新しい試みについて」に基づき、参考人 水島昇（東京大学）から、査読の実際（査読すべきこと、すべきではないこと・しなくてもよいこと）、現在の査読システムの問題点、eLifeの査読プロセス、Review Commons、査読の透明性、これからの査読の在り方について説明を受けた。意見交換の概要は次のとおり。

・水島先生はほとんど全部プレプリントサーバーに出している。プライオリティの面でも有利。急速に変わってきている。

・学生のドクター取得の関係からプレプリントサーバーに上げるのは不安。→Review Commonsではプレプリントサーバーに上げていけば、類似の論文が出てきてもリジェクトされることはないので、プレプリントに上げたほうが安全。

・査読者は論文の内容正しいかどうか、専門家から見てどのくらいのインパクトがあるかの評価をすればよい。何をすれば論文がよくなるかは必ずしも必要ではない。メジャーリビジョンを減らすことが査読地獄からの脱却の糸口。

・論文が多すぎて全てを把握しきれないという問題は発生している。少数のレフェリーでたまたま見逃された結果、Nature等で過去の論文内容が掲載された。Natureに出れば勝ちという風潮は問題。出版は早く、評価はコミュニティ等で人数をかけて長く実施すべき。

・eLifeは最初にゲートキーピングがある。シニアエディタは数十人、レビューイングエディタは何百人もいる。現役研究者のエディタが判断しているので評価は担保されている。

・執筆者と査読者でディスカッションしたほうが効率的かつ効果的。

・最近、掲載費が高くて若手が投稿できない。→eLifeは若干費用が掛かるが、プレプリントサーバーは無料。

(2) 資料3「査読倫理教育の現状と展望」に基づき、参考人 佐藤翔（同志社大学）から、福井大学「査読不正」問題の複合性、査読倫理教育に関する受講状況と提供状況、日本の研究倫理教育と査読論理、提供主体ごとの強みと弱み、日本の学会の状況調査について説明を

受けた。意見交換の概要は次のとおり。

- ・APRINe ラーニング・プログラムは数時間分の査読全般に関するオンライントレーニングで、その中の一コマが「査読倫理」（45分～1時間）。

- ・JSPS「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-」はあっさりしている。審査は研究の介入になってはいけない。研究指導的なコメントは問題。

- ・COPE ガイドラインは事例集が豊富で有益。

- ・査読レポートの論文への盗用という倫理問題は、誰も意識してこなかった。オープン・ピアレビューによって、査読コメントが著作物だと認識されはじめた。

- ・ポスドク、ドクター学生から査読倫理について学んでもよいのではないか。

- ・内容は多少改善の余地はあるが、既存のものを活用すれば、きちんとした教育ができる。

3) その他

- ・近々に会員・連携会員にアンケートを依頼し、結果を文科省への回答に活かす。

- ・第5回（4月28日(金) 18時～）で、有識者1名からの話題提供と議論の予定。

資料：資料1 第3回議事要旨案

資料2 「論文査読の現状と新しい試みについて」（水島先生）

資料3 「査読倫理教育の現状と展望」（佐藤先生）

以上